

留学報告書  
～私のかげがえのない留学生活～

ミドルテネシー州立大学  
外国語学部生（中期）

私は、2022年8月15日から2022年12月8日までアメリカのテネシー州にあるミドルテネシー州立大学に中期交換留学をしていました。帰国後の今、留学生活を振り返ると私の留学生活は、言葉では言い表せないほどかけがえなく素敵な経験になりました。

私は、中学生の頃から「大学生になったらアメリカの大学で勉強したい」という夢を抱いて頑張ってきました。ですので、留学することが決まったときは今まで頑張ってきたことが報われたような気がして、とても嬉しかったのを今でも覚えています。私の留学先であるミドルテネシー州立大学は、アメリカのテネシー州のマーフリーズボロー市にある州立大学で、学部数も多く、様々な分野を学ぶことができる大学です。私は幼い頃からカントリーミュージックが好きだったため、カントリーミュージックの聖地とも呼ばれるナッシュビルがあるテネシー州の大学に留学が決まり、何か縁があるのではとワクワクしていました。

ミドルテネシー州立大学に留学するのは、大学から私一人だけだったので、最初は一人でアメリカに行くことがとても不安であり怖かったです。出発当日は、中部国際空港で家族とお別れをして、シカゴのオヘア空港を経由してナッシュビルの国際空港に行きました。ナッシュビル国際空港に到着したら、留学前から連絡を取っていた大学のアドバイザーの方が空港までお迎えに来てくれたので、迷うことなく大学の寮に向かうことができました。私の寮は、キャンパス内にあるWomack Lane Apartments というアパートのような寮だったため、ルームメイトと二人で生活をしていました。私のルームメイトは、同じ留学生の台湾人の子でした。同じ留学生で誕生日が同じ日だったこともあり、私とルームメイトが仲良くなるのに時間はかかりませんでした。留学が始まってからの1週間は、留学生のために企画されたオリエンテーションウィークで毎日のようにイベントがありました。その中で一番印象に残っているのは、ミドルテネシー州立大学があるマーフリーズボローの町を観光するツアーです。他の留学生の人たちと一緒にマーフリーズボローの町を観光できたことは、とてもいい思い出になりました。また、プールパーティーや食事会など、友達を作りやすいイベントが多かったです。私は最初の一週間、慣れない環境の中でやっていくことに大きな不安を感じていました。また、日本にいる家族や友人と会えない悲しさから挫折をして、ホームシックになりました。しかし、時間の経過と共に自分自身が自然に環境の変化に柔軟に対応ができるようになっていったので、すぐに新しい環境に馴染むことができました。

私の大学は8月22日から授業が開始しました。私はファッション業界の知識を学ぶ授業、世界の文化の違いを学ぶ授業、1960年代のアメリカのカルチャーを学ぶ授業とツーリズムとホスピタリティの授業を履修していました。授業初日は、教授やクラスメイトが話す英語のスピードがとても速く、会話を聞き取ることが思っていた以上に大変で苦戦しました。授業によってパワーポイントやワークシートなどを使わず、教授がひたすら話すのを聞きながら、ノートにメモをとるといった授業もあったので、ついていくのに必死でした。どの授業も大変でしたが、教授やクラスメイトがとても気さくで優しい方ばかりだったので、安心して授業を受けることができました。授業についてのエピソードで一番思い出に残っているのは、ホスピタリティの授業のテストでいい点数を取って “You did very good!” と教授に褒めてもらったことです。どの授業も、毎日リーディングの課題やプロジェクト課題など多くの課題があったため、授業後は友人と図書館で勉強することが多かったです。私の大学の図書館は、午前2時まで開いていたので深夜まで残って勉強することも多かったです。

ミドルテネシー州立大学には日本語学部があり、日本語を学んでいる生徒が沢山いました。毎週木曜日には、日本語クラブといった日本語を使ってアクティビティやゲームなどを

して交流を深めるクラブがありました。私は、英語を使って日本文化の魅力や日本語を外国人に教えたいと思っていたので、毎週欠かさず参加していました。現地の学生に、英語で日本の文化や日本語を教えることは、とても難しく伝わらないことも多かったですが、日本に興味を持って積極的に話しかけてくれる学生が多かったのも嬉しかったです。日本語クラブを通して新しい出会いもあり、友人を沢山作ることができました。

授業がない休日は、ルームメイトや友人たちとお出かけをしたり、ゲームをしたり、映画を見たり、一緒にご飯を作ったり、ご飯を一緒に食べたりしました。また、大都市のナッシュビルは車で40分くらいなので、ドライブでナッシュビルに行って観光する日も多かったです。カントリーミュージックを聞いたり、有名なブロードウェイ通りを散策したり、ナッシュビルチキンを食べたりしました。また、思い出として印象に残っているのは、大学のチームのフットボールの試合を観戦したことです。私は今まで一度もフットボールの試合を観たことがなかったので、フットボール選手のプレーの迫力と応援席のブラスバンド部やチアリーダー部のパフォーマンスに圧倒されました。初めはフットボールについてあまり詳しくなかったですが、何回か試合に足を運ぶとルールなどを理解できるようになったので楽しむことができました。

私はこの留学を通して数え切れない程多くの素敵な出会いがあり、数多くの大切な仲間に出逢うことができました。私と同じように日本の大学や他の国の大学から、ミドルテネシー州立大学に来て同じ時期に留学していた仲間、授業や日常生活を通じて出会えた現地の友人、家族のようにいつも接してくれたルームメイトのおかげで心の底から「留学してよかった」、「ミドルテネシー州立大学に来てよかった」と何度も思いました。留學生活は、私にとって人として大幅に成長できる期間でもあり、数多くの困難を乗り越えたからこそ、今の自分を誇らしく思うことができます。留學生活を共に過ごした仲間や毎日見ていた景色は、私にとって全てが特別であり、一生忘れることのない大切な宝物です。大切な仲間とのお別れは、涙が止まらないほど悲しかったですが、帰国後も定期的に連絡を取り合い、会う約束をするなどして、これからも深い関係を続けていきます。

